Atsuko Kudo Mail Magazine 212

2015.03.13 ●Madrid

しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます。（ロマ書５：８）

●「愛と希望のうた」コンサート

お元気でいらっしゃいますか？
３月７日のマドリッドでのコンサートのためにお祈りくださり、ありがとうございました。主が導いてくださった、大変感謝な時となりました。

コンサート前日のことですが、リハーサルで無理をして喉を傷めたのか、風邪によるものなのか、その夜、喉が痛くなり、咽頭に炎症が起きたことが分かりました。すぐに、小羊の血潮を喉の上に呼び求めて、主の癒しを請い祈りました。祈っているうちに、天からの力が喉に流れ込むのを感じ、痛みが薄らいでいきました。翌朝、多少の痛みが残っていましたが、昼には、痛みも痰のからみも全くなくなっていました。Hodu L'Adonai ki tov！（主に感謝せよ！主はまことにいつくしみ深い）

今回のコンサートは、マドリッド日本語で聖書を読む会の主催で、吉川祥永さん＆フェルナンドさんご夫妻の２年間の祈りと準備によって、会場をお貸しくださったIBC（インマヌエル・バプテスト・チャーチ）の協賛で実現しました。

3.11が近かったこともあり、被災地の様子などもスクリーンに映し出しながら、「愛と希望のうた」と称して、十字架を通して示された主の愛、救い、癒し、希望をお伝えしました。同時通訳の労を取ってくださったフェルナンドさんのスペイン語訳は、時に私の日本語の証しよりも素晴らしく、スペイン人に、ダイレクトにメッセージが伝わったようでした。

コンサートには、スペイン人、日本人だけでなく、アメリカ人、中国人、台湾人、韓国人、フィリピン人、インドネシア人など、合わせて100人近い方々が来てくださいました。コンサート後、列をなして多くの方々が挨拶に来られ、賛美と証しに心動かされ、語られたことを伝えてくれました。30年来祈ってきた私の旧友たちもコンサートに駆けつけてくれました。彼らの多くは、まだイエス様に出会っていませんので、一日も早く永遠のいのちと真実の幸いを得てくれることを心から願っています。

●マドリッドと私

1983 年夏、私はスペイン音楽を勉強するために、マドリッドに留学しました。心が病んでいた私は、救いを求めて、18 歳の時から聖書を読み続けていました。スペインに留学した第一の目的は、大好きだったスペイン歌曲を学ぶためでしたが、何故か「神が私をスペインに呼んでいる」という不思議な思いがありました。

まず、スペイン政府から給費を受けて、サンティアゴ・デ・コンポステラで行われたスペイン音楽国際セミナーに参加しました。そこで、同じセミナーに参加していたダニエル・アンデルードというアメリカ人に出会いました。その数日後、彼のファミリーに出会いました。奥さんのクラウディアは、彼女のご両親が徳島に住んでおられること、また彼女自身も数年日本に住んでいたことを、とてもフレンドリーに話して来られました。（写真＊1985 年のアンデルード・ファミリー）

その年の 10 月、私はマドリッド声楽院（Escuela Superior de Canto de Madrid）に入学。学校でダニエルに再会しました。入学後、同じ門下生のマーシーというアメリカ人に出会い、彼女とアパートメントをシェアするようになりました。

それから一年後、それまでずっと聖書を読み続けていた私は、このままでは地獄へ行ってしまうという恐怖感に襲われるようになりました。何とかクリスチャンになりたいとマーシーに打ち明けたところ、彼女を通して、ダニエルが宣教師であることを知り、ダニエル＆クラウディア夫妻のもとで、マーシーも一緒に聖書を学ぶようになりました。

1984 年 11 月 11 日、ダニエルから、冒頭に掲げたロマ書 5 章 8 節のみことばを示された時、イエス様が私の罪のために死んでくださったことが分かりました。その日、イエス様が、このどうしようもない私のような者のために死んでくださったのなら、今日から私はこのお方のために生きますと決心したのです。その日から、目からうろこが落ちるように聖書が分かるようになっていきました。それまで恐ろしいだけの神だと思っていたのが、愛の神を知るようになりました。マーシーも時を同じくして信仰に導かれました。

キリストの弟子の群れを作ることを目標としていたアンデルード宣教師夫妻からは、毎日、聖書の学びを受けました。そして、1987 年、宣教師夫妻に同行して、マーシーも一緒にドイツのハンブルクに移りました。確かに主の導きを確信した上でハンブルクに行ったのですが、大好きだったマドリッドを去ることは、私にとって非常につらいことでした。それでハンブルクへ移った後も、いつか主が私をマドリッドに戻し日本人に伝道させてくださるように、ずっと祈り続けていました。（写真＊1990 年ハンブルク、左 2 人目から、クラウディア、マーシー、私）

●マドリッド日本語で聖書を読む会

2001 年、初めて参加した「ヨーロッパ・キリスト者の集い」（リヨン大会）で、ハンナ・キビニエミさんが、主の導きによって「マドリッド日本語で聖書を読む会」を始められたことを知り、主をあがめました。この日、「私をスペインへ帰してください」という祈りは幕を閉じ、ハンナさんの働きとマドリッド集会の祝福を祈るようになりました。

奇しくも、ハンナ・キビニエミさんのご両親のピヒカラ宣教師ご夫妻は、私を救

いに導いてくださった宣教師夫人クラウディアのご両親チェイスさんと共に、徳島で宣教活動をしていたことがありました。クラウディアも小さかったハンナさんをよく覚えていました。マドリッド集会発足の陰に、私たちの祈りだけでなく、すでにピヒカラ宣教師ご夫妻とチェイス宣教師ご夫妻の祈りが積まれていたことを知りました。

ハンナさんは、ご主人のお仕事の関係で、数年前に母国フィンランドに帰られました。その後、祥永さん＆フェルナンドさんご夫妻が、「聖書を読む会」の世話役を引き継ぎました。祥永さんは、１才４か月のイサク君をかかえながら伝道に励んでおられます。ご主人のフェルナンドさんは、お仕事が忙しい中、良き夫、良き父として祥永さんをサポートし、日本語礼拝でメッセージを取り次いでいます。

マドリッドには、約 2000 人の日本人が住んでいます。どうか、主が祥永さん＆フェルナンドさんご夫妻に格別な力を注いでくださり、彼らの働きを大いに祝してくださいますように！そして、主が、多くのマドリッド在住邦人を救いに導いてくださいますようお祈りお支えください。

～～～

●プレイヤー・リクエスト

― 4 月 25 日（土）札幌での賛美セミナーのために。

札幌聖書キリスト教会にて、賛美セミナーを開催いたします。北海道在住の方々はどうぞふるってご参加ください。もちろん、本州からの参加も大歓迎です。また、北海道にお知り合いのクリスチャン、教会がありましたら、お知らせせいただけますなら感謝です。

・セミナーパンフレット・申込書　http://atsukokudomm.com/pdf/seminar_saporo.pdf

― 日本には 4 月 17 日に到着します。その後、賛美セミナー、台湾宣教、日本でのコンサートを予定しています。あと一か月余り、十分な準備ができますようお祈りください。
予定は下のリンクからご覧いただけます。
http://atsukokudomm.com/html/schedule.html

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

ハンブルクは、気温はまだ低いですが、

庭では小鳥が美しい声を響かせ、

青空が広がるうららかな天気が続いています。

皆様の上に、主の溢れる恵みが共にありますように！

Atsuko Kudo